

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 18 日現在

機関番号：34202

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：2152032

研究課題名（和文） 都市と文学—産業革命以降のドイツを中心に

研究課題名（英文） CITY AND LITERATURE. GERMANY IN THE INDUSTRIALIZATI

研究代表者 高橋 義人（TAKAHASHI YOSHITO）

平安女学院大学・国際観光学部・教授

研究者番号：70051852

研究成果の概要（和文）：近代化によるヨーロッパ都市像の変遷を主に近代ドイツを中心に考察した。メーザー、ゲーテ、F・ラングらは、ベルリンのようなメトロポリスよりもヴァイマルのようなコンパクトシティにおけるほうがより人間的な生活を営むことができると考えた。「コンパクトシティ」の提唱は、人々が「ふるさと」を喪失している今日、大きな意味をもっている。発表のうちの多くは国際雑誌に掲載されるか、国際学会で発表され、国際的に評価されることができた。

研究成果の概要（英文）：My studies have considered the changes in European cities, among others, the German ones, caused by the modernization. Justus Möser, Goethe, Fritz Lang et al. believed that we could lead a more human life in compact cities such as Weimar rather than in a metropolis such as Berlin. The idea of the compact cities has a important meaning for us, because many of us has lost our own places dear to our hearts today. Many of my publications have appeared either in international journals or in international scientific societies and could be evaluated internationally.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：人文科学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学（英文学を除く）

キーワード：メーザー、ゲーテ、メトロポリス、コンパクトシティ、ふるさと、庭園、ユートピア、西田幾多郎

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 5年に1回開かれる国際独文学会2010年ワルシャワ大会で分科会を主宰することになり、そのときのテーマを「都市とユートピア」とした。

(2) 「都市における人間性の喪失」は現代の大問題である。人間性を重視する文学研究

はこの問題に立ち向かわねばならない。

## 2. 研究の目的

(1) 近代化にともなう都市化の波の中で人間性が次第に失われつつあることを、人間を主人公とする文学をもとに明らかにする。

(2) メトロポリスの対極に位置するコンパ

クトシティに「ふるさと」や人間性回復の鍵があることを明らかにする。

### 3. 研究の方法

- (1) 都市問題と人間性の回復がテーマである以上、社会科学と文学研究を統合した方法が導入されなければならない。
- (2) 近代化と都市の盛衰の関係を論じる以上、歴史学的方法が不可欠である。

### 4. 研究成果

- (1) 中生代に栄えた恐竜は、発達しすぎたがゆえに絶滅した。いつか人類も、その発達しすぎた科学のために破滅してしまうのではないか。手塚治虫は、F・ラングの影響の下に漫画『メトロポリス』を描き、都市の肥大化、人造人間の製造による人類の滅亡を危惧した。手塚治虫の先見性を検証した(学会発表③)。
- (2) 谷崎潤一郎のいう「陰翳礼讃」の美学が失われて久しい。うす暗さの残る古い街並みの代わりに、ピカピカに明るい団地が登場した。近代日本のまちづくり批判を、ベルツ、L・ハーン、安部公房、向井周太郎らの論を用いながら展開した(論文①)。
- (3) 父親の大反対にもかかわらず、ゲーテはなぜフランクフルトから田舎町ヴァイマルへ移り住んだのか。なぜ彼はロンドンやパリのような大都会を訪れなかったのか。それは、彼がメーザーの説を参考にしてコンパクトシティを実際につくって見たかったからだった。コンパクトシティの文化的重要性、及び町づくりの実践家としてのゲーテの一面を明らかにした(学会発表③)。
- (4) 有史以前のヨーロッパや日本にはストーンサークルや盤座・盤境と呼ばれる巨石の石組みがあった。日本では、それが後の日本庭園(特に石庭)のひとつとなった。他方、近代西欧ではストーンサークルが庭園につながることはなかった。しかしイタリアもフランスもイギリスも、一度は都市から締め出した自然を庭園という形で再生させ、それぞれ別様の永遠を模索した。各国の庭園のなかに「都市の中のユートピア」のさまざまな意匠を探った(学会発表⑫)。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者には下線)

〔雑誌論文〕(計8件)

- ① 高橋義人、陰翳礼讃の日本のまちづくり、『文明と哲学』(燈影舎)第2号、査読有、2009、pp.87-103.
- ② 高橋義人、ヘーゲルとグノーシス、『立命館哲学』第21集、査読有、2010、pp.1-39.
- ③ 高橋義人、祭り——刻印された集団記憶、木村敏・大橋良介・高橋義人・谷徹(編)

『文化における〈時間〉』(燈影社)、pp.141-169、pp.205-228.

- ④ Yoshito Takahashi、"Weltliteratur" bei Wieland u. Goethe, Goethe-Jahrbuch 126, (Wallenstein), 査読有、2010、pp.27-39.
- ⑤ 高橋義人、はたしてゲーテ的人文主義は「時代遅れ」か——ヤスパースとクルティウスの古典主義論争をめぐって、『モルフォロギア』32号(ナカニシヤ出版)、査読有、2010、pp.13-27.
- ⑥ 高橋義人、原罪か自由か——失樂園神話の呪縛を解く、『文明と哲学』第3号(燈影社)、査読有、2010、pp.52-68.
- ⑦ 高橋義人、現代人の「ふるさと」、『文学』第12巻第1号(岩波書店)、査読有、2011、pp.232-233.
- ⑧ Yoshito Takahashi, Auf der Suche nach der verlorenen Stadt „Edo“ in Paris. Anti-modernismus bei NAGAI Kafu. In: Ryoza Maeda (Hg.): Transkulturalität. Identität in neuem Licht. Asiatische Germanistentagung in Kanazawa 2008. 査読有、München, Iudicium, 2012、pp.694-704.

〔学会発表〕(計14件)

- ① Yoshito Takahashi, „Weltliteratur“ bei Wieland und Goethe. Festvortrag bei der Hauptversammlung der Goethe-Gesellschaft in Weimar. Weimarer Theater, 2009.6.4
- ② 高橋義人, Welttheater と Weltliteratur. ゲーテ自然科学の集い京都例会、立命館大学衣笠キャンパス、2009.7.26
- ③ Yoshito Takahashi, Metropolis im japanischen Manga. GIG-Istanbul, Universität Istanbul, 2009.10.12
- ④ 高橋義人、ヤスパースかクルティウスか——アウシュヴィッツ以降のゲーテ受容、ゲーテ自然科学の集い大会、立命館大学末川記念会館、2009.11.3
- ⑤ 高橋義人、「自然という書物」を読む、京都日独文化研究所主催・哲学講座、2009.10.28
- ⑥ 高橋義人、シュラーアーマッハーと聖書解釈学、京都日独文化研究所主催・哲学講座、2009.11.4
- ⑦ 高橋義人、ディルタイからガダマーへ、京都日独文化研究所主催・哲学講座、2009.11.4
- ⑧ 高橋義人、グノーシス主義と近代哲学、立命館大学哲学会大会、立命館大学末川記念会館、2009.11.21
- ⑨ Yoshito Takahashi, Weimar als Idylle. IVG-Warschau, Warschau University, 2010-8-4
- ⑩ 高橋義人、ゲーテとヴァイマル、ゲ

- 一テ自然科学の集い京都例会、立命館大学恒心館、2010.9.4
- ⑪ 高橋義人、ヴィーラントとゲーテにおける世界文学、石川ゲーテ愛好会、小松市、2010.11.13
  - ⑫ Y. Takahashi, Garten u. Utopie. GiG-Colloquium Bangkok, Chulalongkorn Universität in Bangkok, 2011.8.12
  - ⑬ Yoshito Takahashi, Nishida und Dilthey, Anthropologie u. Geschichte. Wilhelm Dilthey zum 100. Todestag, Konferenzraum der Akademie in Meran, 2011.9.30
  - ⑭ 高橋義人、魔女は空を飛ぶ、立命館大学土曜講座、立命館大学、末川記念館、2012.1.28
  - ⑮ 高橋義人、学生時代に見つける自分—ゲーテと私、第2回思為塾教育講演会、枚方市思為塾、2012.3.25
  - ⑯ Yoshito Takahashi, Goethes „Idee des Reinen“ und das zenbuddhistische Nichts, GiG-Colloquium Kyoto 2012 (Orient im Okzident, Okzident im Orient), Ritsumeikan University in Kyoto, 2012.3.14

[図書] (計4件)

- ① Yoshito Takahashi: Japan und die deutsche Kultur. Die Rezeption der Grimmschen Märchen u. der deutschen Bildungsidee seit der Meiji-Zeit, In: Ernest W. B. Hess-Lüttich (Hg.): Wie kann man vom ‚Deutschen‘ Leben? 2009 Frankfurt/M (Peter Lang), pp.331-342.
- ② 木村敏・大橋良介・高橋義人・谷徹(編)、文化における〈時間〉、燈影社、2010、全304頁
- ③ 高橋義人・京都大学大学院「人環フォーラム」編集委員会(編)、教養のコンツェルト、人文書館、2011、全664頁
- ④ 高橋義人、魔女とヨーロッパ、岩波書店、2011、全320頁

[産業財産権]

- 出願状況 (計0件)
- 取得状況 (計0件)

[その他]

ホームページ等

<http://www.heian.ac.jp/education/yoshito/>  
ただし2年ほど更新していません。

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

高橋義人 (Yoshito Takahashi)

平安女学院大学・国際観光学部・教授

研究者番号：70051852

### (2)研究分担者

なし

### (3)連携研究者

なし